

京都市ウッド・チェンジアクション推進会議令和7年度第1回 議事概要

1 日 時：令和7年4月10日(木) 15時～16時30分

2 場 所：京都市役所分庁舎第4会議室

3 議事次第

(1) 企画部会の取組について

- 1) 企画部会の取組について
- 2) 企画部会1 木材のサプライチェーンの強化について
- 3) 企画部会2 木材の魅力発信について
- 4) 企画部会3 森林Jクレジットの創出・販売体制の検討

(2) 令和6年度の取組について

- 1) 令和6年度木材利用促進月間の取組と令和7年度の取組（案）について
- 2) 京の木製品認証制度

4 議事概要

(1) 企画部会の取組について

- ・ ウッドショックの際、関東で建設された住宅で、当初はベイマツを使用する設計だったが、設計をやり直し、京都のスギを活用した事例があった。
- ・ 材寸を上げても建築全体に占める木材費がそれほど高くないことを、工務店や設計者から施主に数値的に説明する必要がある。家の見える箇所については、材料をベイマツから地元のスギやヒノキに変えることで、家の雰囲気や住み心地も変わることを説明し、施主を説得する必要がある。
- ・ 日本人は木のぬくもりを理解している。施主に木の良さを伝える啓蒙活動を主体とすべきだろう。
- ・ 京都建築士会の木造建築研究会では、会員向けに木造の事例を募集し、「純真無垢な京都の木づかい事例集」を作成している。木製建具、格子の材料の工夫、丸太加工など設計者や工務店が取り組みやすい事例をnoteに掲載し、情報発信している。部分的な活用でも様々な形で使えることをPRし、地域産材に使っていただけるよう取り組んでいる。木を使った施工は大工の技術継承にも繋がる。
- ・ 配布された「戸建て住宅で使える京都産のスギ」のリーフレットの5ページ目でスギとベイマツの価格を比較している。京都府の補助制度を活用すると、スギの方が安価になる。サプライチェーングループに登録するとさらに安価になるので、ぜひスギの梁（横架材）を使っていただきたい。

- ・ 木造技術への大工の意識改革と、京町家を含む木造建築の良さを市民に普及することが重要であると考えている。京都府建築工業協同組合では伝統工法の継承に力を入れており、若手の大工を対象とした「葎塾（よしじゅく）」という勉強会を開催している。昨年は市開催のウッド・エキシビションに参加し、葎塾で作成した鳥居の制作過程や伝統木造工法による各種の継手の見本を展示した。
- ・ リーフレットに記載された例に関して、梁や小梁など、図面にある部材の断面寸法は規格品のものである。ベイマツからスギに変更する場合、住宅の梁せいが元々大きい（安全率が高い）のでスギに変えることで通常と同じ寸法の部材を使用でき、大きい断面の部材を使用する必要はないと考えている。
- ・ リーフレットには、無垢材と集成材のイラストもあるとよいと思う。京都に集成材の中断面や大断面を作る工場ができた。京都府内産材で無垢材から集成材まで様々なバリエーションがあるので、100%京都府内の木材で建てられることがPRできるとよいのでは。
- ・ 京都中央信用金庫三条支店周辺は、かつて木材を運搬した西高瀬川の終点として木材屋が栄えたエリアである。近隣に歴史のある支店を新築するに当たって、店舗部分は子会社の京都アンプリチュードに出向中の当金庫職員がWAZAIという伝統的な技術を駆使して内装をデザインした。名栗加工を施したATMの壁面に京都府内産のみやこ杉木を使用している。断熱ガラスや太陽光発電設備の導入にも取り組んでいる。環境負荷の低減も大きな課題の1つと認識しており、今後、新築する店舗においても、環境配慮の取組も含めて取り組んでいく予定。

(2) 令和6年度の取組について

- ・ 木製品認証制度について、今後は京都の魅力を活用して情報発信すべきだと考えている。今後、認証品が増加すれば、ロゴのみで認識されるようになり、消費者に安心感を与えることにつながると思う。
- ・ 令和6年度木材利用促進月間の取組の1つである北山トレッキングに参加した、北山杉の解説を聞き、森林の中で体験ができたことが良かった。木材の良さや京都の魅力を伝えるには、実際に木に触れて体験してもらうことが重要だと考えている。情報発信の方法は様々あるが、体験にこだわっていききたい。
- ・ 京都の木で家を作る機運を高めるためにも、森や木に親しむイベントを定期的に実施し、市民が中川のエリアに訪れる機会が増えればよい。

＜その他＞

- ・ 新京都戦略においてウッド・チェンジを加速化していくのであれば、社会整備や環境面だけでなくインバウンド観光客への訴求も考慮すべき。宿泊税を活用した旅館・ホテルの木質化推進の議論はまだ出ていない。万博では木製リングが建てられPRされているが、京都ではウッド・チェンジの取組として今後何ができるか、皆様からもアイデアをいただきたい。

以上